英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業 戦略的原子力共同研究プログラム 事後評価総合所見

研究課題名:原発事故に対応した教育行政・教育現場におけるリスク管理・リスク教育とグローバ ル人材育成

代表研究者 (研究機関名): 山口 克彦 (福島大学)

再委託先研究責任者(研究機関名):藤岡 達也(滋賀大学)

研究期間及び研究費:平成27年度~平成29年度(3年計画) 15百万円

切え朔间及び切え負. ヨ	F成2/年度~平成29年度(3年計画) 15日万円
項 目	要約
1. 研究の概要	福島県教育庁と協力し東京電力福島第一原子力発電所事故当時の教育
	行政・教育現場の動きを整理しリスク管理のあり方を見直すとともに、福
	島県内の学校現場において実施する研修を通して実質的なリスク教育の
	指針を立てる。さらに福島県だけでなく中越沖地震時の柏崎刈羽原子力発
	電所事故からの連続性を分析し、今後再稼働が予想される地域への展望
	等、グローバル人材を輩出するための教育プログラムの実証を行うことを
	目的とし、以下の研究開発を行う。
	1) 教育行政における放射線リスク管理体制
	2) 学校現場における放射線対策リスクコミュニケーション
	3) 円滑なリスクコミュニケーションを涵養する放射線教育
2. 総合評価 A	・福島県教育庁と協力し、タイムリーに東京電力福島第一原発事故後の教
	育行政・教育現場の状況を聞き取り、調査を実施して整理した結果を踏
	まえてリスク管理のあり方を提示し、福島県内の学校現場におけるリス
	ク教育の実践につなげている。貴重な調査研究であり、得られた結果に
	基づく提言は、今後のリスク管理のあり方の改善やリスク教育への実施
	に大きな貢献を果たすと思われる。「原子炉の廃炉」をキャリア教育の
	一環として取り上げるような先進性の教育実践にもつながっている。福
	島県内の教育関係者との長年にわたる信頼関係構築の結果として得ら
	れた成果であり、多くの自治体の放射線リスク管理のあり方並びに教育
	研修に生かされることが期待できる。
	S)極めて優れた成果があげられている
	A) 優れた成果があげられている
	B) 一部を除き、相応の成果があげられている
	C)部分的な成果に留まっている
	D)成果がほとんどあげられていない